

立体コピー作製機ピアフ

取扱説明書



〒355-0321 埼玉県比企郡小川町小川1004

TEL : 0493-72-7311

FAX : 0493-72-7337

E-mail : info@kgs-jpn.co.jp

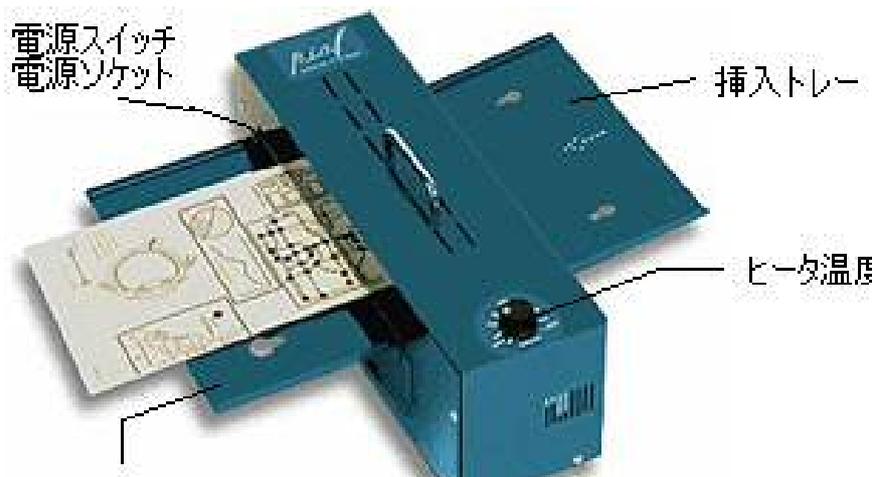
URL : <http://www.kgs-jpn.co.jp>

開梱と使用準備

ピアフを梱包箱より注意深く取り出します。
本体から挿入トレー及び取り出しトレーを取り外して下さい。

角度のついた挿入トレーの切り込み部を、本体右サイドにある2本の取付フックに差し込んで下さい。

更に、取り出しトレーの少し大きい切り込み部を、左サイドの点検口カバー止め兼用ネジフックに取り付けて下さい。



ピアフは右から左へカプセルペーパー（以下ペーパーと言う）が移動する方向、あるいは、手前から奥にペーパーが移動するような位置にセットして下さい。この時、本体底部にある冷却ファンの空気出口を塞がないようにご注意下さい。



ピアフは使用中にペーパーから僅かな臭いや発砲ガスが発生しますので、換気の良いところで使用して下さい。

使用方法

ペーパーの発砲面（わずかに黄色な面）に、手書きやコピー機で複写して図面等を描きます。手書きの場合、黒色の油性マーカー、墨筆、鉛筆、黒カーボン紙などが利用できますが、線の太さ、濃さ、カーボンの含有量など種々条件によって盛り上がり程度が異なります。

一般に、カーボンの含有量の多い筆記具やインクを使用しますと良い結果が得られます。ペーパーの種類、描画内容に応じて、本体上部のヒータ温度設定つまみを、盛り上がり状況を見ながら、最初は低くし、徐々に高い方（右回り）へ設定して下さい。

慣れるまでは、色々試して、最適な設定位置を把握される事をお勧めいたします。

ペーパーの発砲面を上にし、挿入トレーに沿って本体の中へ挿入しますと、自動的にモーターが回り、ペーパーロールが回転してペーパーをくわえ込みます。

さらに、赤外線ヒータが点灯して、発砲、盛り上がり作用をさせながら、取り出しトレー上にペーパーを送出します。

ペーパーの移動中にピツと言うピープ音がしますので、この音を確認した後次のペーパーを挿入して下さい。



音を確かめずに連続して挿入しますと途中でストップしますので、連続して行う場合は、必ずこの音を確認してから次のペーパーを挿入して下さい。
ペーパーを挿入する際は手早く挿入してください。
ゆっくりと挿入した場合、途中でペーパーが止まる可能性があります。

温度設定つまみは適当な盛り上がり状態を得たら、それ以上高温側にセットしないようにして下さい。

全体をバランスよく盛り上がらせ、仕上げ状態を良くするには、太い線や大きな塗りつぶし部分のある図面などと、繊細なグラフィック図を混在した様な図柄は避けると良いでしょう。

太い線、塗りつぶし部は、点線や編目模様にしたたりして、全体的に平均した線幅になるよう工夫すると良い仕上げ結果が得られます。

使用後は、各トレーを外し本体の両サイドのフック部にそれぞれトレーの孔部を差し込み収納します。

本体仕様

外形寸法 : 500(L)x148(W)x190(H) 収納時
500(L)x510(W)x191(H) 使用時
重 さ : 6[Kg]
使用可能周囲温度 : 0~30°C
電源周波数 : 100v 50Hz/60Hz
消費電流 : 10A(最大)



カプセルペーパー取扱上の注意

本機に使用するカプセルペーパーは、特殊な発泡性物質を紙に塗布して仕上げてありますので、一般の用紙と違う取扱が必要です。

- ① 高温多湿を避けて保存して下さい。
- ② 折り曲げないで下さい。
- ③ 重い物を上に乗せないで下さい。
- ④ コピー機で複写して使う場合は、紙詰まりには充分ご注意下さい。
コピー機内部の高温で異常発砲を起こして故障の原因になる場合があります。
- ⑤ 不要になりましたペーパーはリサイクルしないで下さい。
必ず可燃ゴミとして取扱下さい。

トラブルシューティングおよび取扱上の注意

ピアフはペーパーが詰まったり、オーバーヒートになると自動的にシャットダウンする総合安全設計になっています。

ペーパーが挿入口におかれると、タイマーが始動、6秒後にペーパーが正しく送り込まれなかった場合には、シャットダウンします。

また、ペーパー挿入時にペーパーを強く押さえて挿入を妨げたり、ペーパーを一度挿入口に置いた後に引き戻したりして、挿入してから排出の時間サイクルが狂わされると、たとえ、ペーパーが正常に移動しても途中でシャットダウンされてしまいます。

この場合はゆっくりとペーパーを引き抜いて下さい。

挿入時、6秒以内に正しくペーパーが挿入されると、他の安全装置がペーパーの移動モニターを開始します。

ペーパーが詰まってまったく動かなくなったり、1秒半以上ペーパーの移動を妨げると、ヒータとペーパー送り用のモータがストップします。

ただし、冷却用ファンのみは作動し続けます。

ペーパー詰まり

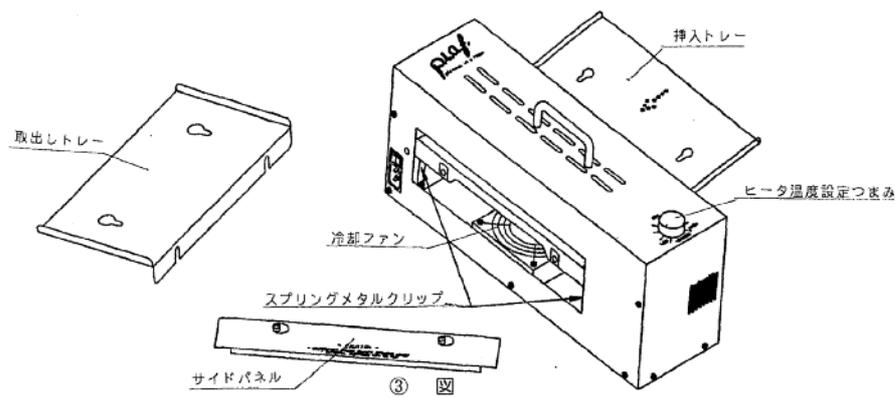
ペーパーが温度の上げ過ぎで異常に盛り上がったたり、カールして内部に詰まってしまって、正しく送れなくなった場合は以下のように修復して下さい。

電源スイッチはそのままにして暫く冷却ファンを回したままにして置き、本体が十分に冷えてから電源を切して下さい。

取り出しトレイを取り外してから、2本のネジフックを左に1/4回転して外し、サイドパネルを取り外して下さい。

開口部の両サイドにあるスプリングメタルクリップの上に、左右の親指の腹を当て強く押し込んで下さい。送りローラ装置部全体が下がって詰まったペーパーが除去できます。

ペーパー除去後は、上記の逆順序で組み立てて下さい。特に送りローラ装置部はカチッと言うまで確実に元の位置に戻して下さい。



ヒータのオンオフ

本機の内部温度は常にモニターされており、異常に上昇した場合は温度が下がるまでヒータ電源を切った状態になります。

この為、異常状態ではオンオフが繰り返し起こる事になりますが、この場合は、販売元へご相談下さい。